

# 食物アレルギーについて

今回は小児科 日本小児学会専門医片岡優子医師に  
「食物アレルギー」について伺いました。



▲片岡優子 医師

ことが一番多いですが、**群**なども増えてきています。  
ぜーぜー、咳などの呼吸器症状、嘔吐・腹痛などの消化器症状もよくみられます。

子どもの食物アレルギーは年々増加傾向にあります。原因食物は卵・牛乳・小麦が代表的ですが、最近くるみやカシューナッツなどの木の实類のアレルギーが増えています。ほか、卵の黄身などを食べて数時間後に嘔吐や下痢を繰り返す「消化管アレルギー」や、花粉症をもっている方が野菜や果物を食べたあとに口の中がかゆくなる「口腔アレルギー症候

群」なども増えてきています。  
原因となる食物を摂取した後運動することで起こる「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」にも注意が必要です。以前は症状の出る食物をまったく食べないように指導されていましたが、いまは食べられる範囲のものは積極的に食べていく方針に変わってきています。

食物アレルギーを確実に診断するには血液検査のみではなく、病院で実際に食物を食べて症状が出るかみる「食物負荷試験」が必要になる場合があります。食物を食べた

あとで気になる症状が出た場合はかかりつけの先生や当科にお気軽にご相談ください。

社会福祉法人  
恩賜財団

## 済生会今治病院



今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

# ☎0898-47-2500

